

令和5年度 地区研修園 研修報告

西部地区 春日こども園

研修主題

「子どもの心を動かす環境づくりにおける保育者の役割」 ～製作を通して主体性を育てる保育～

設定理由

園の教育方針の一つ…自立の精神を育成する。 主体性が育つ⇒全ての力の底上げ⇒生きる力へ

※根拠となるもの…教育保育要領解説【環境を通して行う教育保育】②園児の主体性と保育教諭の意図

<幼児の気になる実態>

- ①製作遊びに興味をもつ子ともたない子の差がある。
- ②遊びに発展がなく、持続しない。
- ③保育者や友達に確認しないと始められない。

令和2年度から3年間、「主体性を育てる製作遊び」～興味をもってかかわる四季の製作遊びを通して～という研究テーマで行ってきた。しかし、せっかくよい環境を工夫し作っても上記のような姿(課題)が見られた。園内研修で、「どの子ども達成感を味わうことで意欲につなげ、主体性を育てていくためには、長期的に計画した環境の中で保育者がどうかかわるかが大切ではないか」と考えた。そこで、令和5年度は「子どもの心を動かす環境(製作活動)で主体性を育てる保育」を深めるため、保育者がどうかかわったら良いかを中心に学びを進めることにした。

研修の進め方

- 環境設定:「いつでも製作を始められるよう、用具や素材、子どもたちが持参してきた空き容器 などの配置」—
- ・発達年齢を踏まえ、「発達段階に応じた製作遊び」「四季を感じる製作遊び」「異年齢のかかわり」の3つの視点から年間計画を作成し、職員間で共有しながら実践する。
 - ・長期に渡った計画の中で積み重ねの指導を行う。
 - ・学期末に職員でワークショップを行い、成果や課題、手立てを話し合う時間を設ける。
 - ・公開保育、参加者とワークショップを使った話し合いで学びの場を設定する。(6月16日に実施)

研修経過

- 4月・・・研修主題決定及び研修の進め方について話し合い、年間計画作成、4月～保育実践
- 5月・・・各学年の公開保育内容決定、指導案作成
- 6月・・・公開保育・意見交換会
- 7月・・・異年齢交流、公開保育の反省についてワークショップ形式で話し合い
- 12月・・・2学期の反省と手立てについてワークショップ形式で話し合い

実践報告 6月16日公開保育実施

<3歳児> ねらい ○「好きな遊びを友達や保育者と一緒に楽しもう」

- 目指す姿
- ・好きな遊びを見つけて、自分の思いを出して遊ぶ。
 - ・同じ場で遊ぶ友達や保育者に親しみをもつ。
 - ・身近な物を使ってつくったり、つくったもので遊んだりすることを楽しむ。

○当日の遊びの様子 <環境：魚釣り 新聞紙で変身 段ボールのトンネル>



子どもたちが「やってみたい」と思って自ら遊び出せるように、また、目で見てどんな遊びができるかイメージできるように工夫した3つの遊びコーナーを用意した。友達と同じ遊びを通して言葉を交わすこともできるように、広い場や十分な材料を用意するなどの環境を工夫をした。

保育者も一緒に遊び、楽しさを表情や言葉で伝えることで、いろいろな遊びに興味をもち自分からかかわって遊べるようにした。(経験の積み重ね)

○振り返り

「釣れたよ!」「気持ちいい」などの自分の思いを言葉で伝える姿や、友達のしている遊びに興味をもち、同じことをして楽しむ姿が見られた。「また魚釣りしたい!」「トンネル楽しかった!」など子どもたちから声が上がリ、その後も繰り返し遊びを楽しんだ。

見ただけですることが分かりワクワクする環境の設定、保育者が仲間になって一緒に楽しんだり発散的に遊んだりするなどのかわりを意識したことで、子どもたちが主体的に環境にかかわり、遊びの中で心を動かしながら育ちあえることを再確認できた。また、動的な遊び、一人でじっくり取り組む遊びなど、興味が異なる園児一人ひとりが好きな遊びを見つけられるような環境設定が大切だとわかった。

<4歳児> ねらい ○「お弁当を作って友達とかかわって遊ぼう!」

目指す姿

- ・身近な素材を使って、自分のイメージしたお弁当を作る。
- ・作った物で遊ぶ楽しさを味わう。
- ・自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、友達とごっこ遊びを楽しむ。

子どもたちがイメージしやすいようにお弁当の写真やチラシなどを掲示した。そして、子どもたちが扱いやすく無理なくイメージを形にすることができるような身近な素材・用具(段ボール紙、新聞紙、折り紙、空き容器・のり、はさみ、セロテープなど)を準備した。

○当日の遊びの様子 <お弁当作りからピクニック・お弁当屋さんごっこへ>



いろいろな素材を使って自分がイメージするお弁当を作っている子が多かった。完成した作品を友達に紹介する機会を設けると、「(友達と)同じものを作りたい」、「どうやって作ったの?教えて!」などと、子ども同士のかかわりも増えた。お弁当が完成すると具材を箱につめてピクニックごっこやお弁当屋さんごっこが始まり、友達を誘って一緒に食べたり、お弁当のおかずを交換したりして遊びが広がっていった。自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながらごっこ遊びをする姿も見られた。

○振り返り

自分たちのイメージしたものを形にし、作った物で友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように、子どもの実態を把握しながら子どもたちの興味関心に合わせて、身近な素材を使った製作をしてきた。イメージが広がるように視覚で知らせたことで「やってみたい!」「〇〇もつくりたい!」と意欲的な姿が見られ友達と一緒に作ったり遊んだりしていた。保育者が完成した作品を他児に紹介したり、タイミングを見て新しい素材を出したり、遊びに必要な言葉を知らせながらモデルとなって一緒に遊んだりしたことで、主体的に活動する子が増えた。子どもたちの実態把握(理解)をして、環境設定を行ってきた。子どもの声を拾いながらタイミングを見て環境の再構成をしてきたことが、遊びの継続に繋がった。場に応じて話し合いながら進めることで、友達と共通のイメージをもつことができ、子どもたちで遊びを発展させていくことができるのだと感じた。

<5歳児> ねらい ○「みんなで動物園を作って遊ぼう!」

- 目指す姿
- ・友達と協力したりイメージを共有したりしながら作ることを楽しむ。
 - ・自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりしながらかかわって遊ぶことを楽しむ。
 - ・自分たちで作った物に親しみをもって遊んだり、遊びを広げたりする。

動物や、動物園ごっこに必要な物を作ったり、それを使って遊んだりすることができるよう、作るコーナーと遊ぶコーナーを分け、子どもたちと一緒に環境設定をした。

○当日の遊びの様子 <動物園ごっこ (えさあげ体験・動物園作り など)>



同じグループの友達と協力しながら、話し合っ決めて動物や動物園ごっこに必要な物を作る姿が見られた。完成すると、動物に親しみをもってエサをあげるなどして楽しんでいた。カメラを作り動物と写真を撮ったり、園内の地図を作ってお客さんに見てもらえるようにしたりするなど、子どもたちからいろいろなアイデアが生まれ、遊びが発展していった。また、後日他学年の子どもたちに遊びに来てもらった時には、自分たちが作った動物と一緒に見たり、小さな子たちの目線に合わせて声を掛けたりしながら一緒に動物園ごっこを楽しむ姿が見られた。

○振り返り

自分たちが作った物で異年齢の友達に遊んでもらうことを目的とし、子どもたちと一緒に計画しながら話し合いや製作活動を進めてきた。子どもたちが主体的に活動できるよう、グループの友達と協力したり思いを出したりしながら作る姿を見守り、必要に応じて声掛けや友達とイメージを共有できるよう仲立ちをした。また、友達同士で思いを伝え合いながら活動できるようなきっかけをつくった。

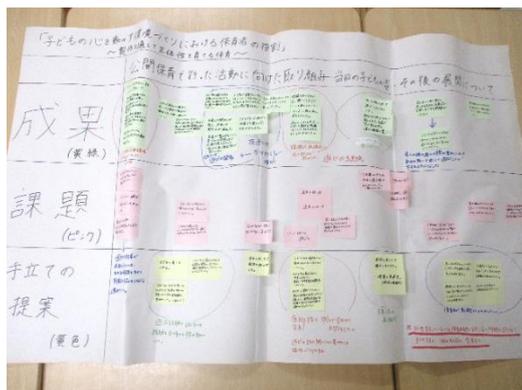
保育者が見通しをもって計画的に環境を準備し、子どもたちと共有しながら進める中で環境の再構成をした。その中で、見守る保育と仲立ちする保育のタイミングを計ったり自ら動き出せるような声掛けやかかわり方を工夫したりすることで、子どもたちが主体的に遊びを進める姿が見られるようになった。

《5歳児公開保育・意見交換会》

当日参加してくださった先生方と、年長児クラスの公開保育について、3つの目指す姿を視点にワークショップ形式での意見交換会を行った。成果・課題・手立ての提案についていろいろなご意見をいただき、今後に生かせる意見交換会となった。



《公開保育の反省についてワークショップ形式で話し合い》



1学期末には、6月の公開保育で行った活動に向けた取り組み、当日の子どもの姿、その後の展開について、研修を行った。様々な課題に対して、環境の再構成をする・保育者が意識してかかわっていく・遊ぶ経験や話し合いの経験を日頃から積み重ねていくなどの手立ての提案が出て、それらを行うためには日頃困っていることなどを保育者間で話し合う時間を設けていくことが大切だと気づき、職員間で共通理解することができた。

終わりに

子どもたちの主体性を育てるためには、到達目標（目指す姿）を定め、それに向けた長期的な環境設定を計画し、保育者も発達段階に応じたかかわり方をしながら、自信と意欲につながる保育をすることが大切である。それを確実に実践するために、日頃から保育者同士で話し合う時間を設け、短期の具体的な計画で実践報告をしながら経験を重ねていきたい。今後も職員間で共通理解し、長期的と短期的な計画の中で連携を図っていきたい。